

いぼとりじぞう



採話・よしい民話研究会
絵・M.アイレン

付録



採話・よしい民話研究会
絵・新村みゆき

いぼとり地蔵

いじは、寄居町の

男衾といじとじんです。

男衾の

今市のしんじうのそばは、

むかしから

おどろが ありました。

いぼとり じぞう



おどろくの なかには、

おおきな おじぞうさまが
はいっていきます。

やちうい おかおですね。

いの おごねいねあぢ、
ごぼんごごねいねあぢ
ちあわしてきます。



いまから 八〇〇ねんま

むかしのこと、

源頼朝と いうひとが

鎌倉に 幕府を

ひらきました。

このころの 今市は

お宿が たくさんある

しゅくばまちだったので

とても にぎやかでした。

頼朝の およめさんになったのは、

北条政子と いうひとでした。

政子は、

六つの ちいさい おじぞうさまを

おまもりながら

だいにたご してしました。



あるとし 政子は、

びょうきになって しまいました。

なかなか なおらないので

伊香保^{いかほ}の おんせんに 行って

とうじを することになりました。

とうじと いうのは

おんせんの おゆで

びょうきや けがを なおすことです。

政子は、おませりの

おじぞうちまを もって

おかにこ のり

おとせのものをつれて

しゅっぱつしました。

